

おはようございます。公明党の大島実です。

公明党を代表して大きく4点質問します。

花川区長は年頭挨拶で2022年を「新たな区の将来像の<sup>いしずえ</sup>礎を、5期20年の節目となる年に築いていく」とスピーチされた。我々区議会公明党は、「5期20年の総仕上げをする」「未来に飛躍する礎を築く一年」と受け止めました。

最初に1、「5期20年花川区政をふりかえり、未来を築く一年について」質問します。

1-[1]「長生きするなら北区が一番」について

昨年12月の第2回北区基本構想審議会で示された資料で、北区の65歳の健康寿命は男性は80.6歳、女性が82.47歳で、男女ともに東京の平均健康寿命を下回っています。区長を先頭に「長生きするなら北区が一番」とスローガンを掲げてきましたが、北区の65歳健康寿命は平均以下で、健康寿命を延ばすことが引き続き最重要課題だとわかりました。

もうじき、団塊の世代が75歳を迎える2025年になる一地域包括ケアシステムの構築が急がれます。いまシンクタンクの介護専門家から、全国の地域包括ケアシステム構築の現状について「いまだ地域ビジョンや、明確な目標もなくシステムの構築に取り組んでいる地域も少なくない」との厳しい指摘がなされています。

北区の現状について伺います。

●北区の地域包括ケアシステム構築の現状と進捗状況について、

<sup>けんいき</sup>7圏域ごとに分けてお答えください。

次に、高齢者あんしんセンターならびに、地域ケア会議の充実についてお聞きします。

●高齢者あんしんセンターは、日々の業務の他に寄せられる幅広い相談事や複合的な困難事例の対応など、限られた人員と予算でギリギリのところまで踏ん張っています。区議会公明党は、昨年の第4回定例会で高齢者あんしんセンターの人員増員と予算の増額を求めたところです。高齢者あんしんセンターについて以下、3点質問します。

①昨年度、北区は王子高齢者あんしんセンターを基幹型の地域包括支援センターに位置付けた。これまで不明確だった保険者としての責任を明確にし、センターの機能強化がされるものと期待します。

区直営の王子高齢者あんしんセンターの役割について、お答え下さい。

②王子高齢者あんしんセンターに各センターを指導できる専門家ならびに介護・福祉・医療全般の専門アドバイザーの配置が必要だと考えますが、区の見解を伺います。

③高齢者あんしんセンターの利用者からの声によると、高齢者あんしんセンターの提供されるサービスに、質の違いが出ていると感じます。サービスの質の違いは、提供される地域住民にとって健康・福祉・介護・医療の地域格差に直接つながる問題です。

質の高いサービスが受けられるよう高齢者あんしんセンターの<sup>へいじゅんか</sup>平準化を急いで下さい。区の対応をお聞きします。

●地域ケア会議の充実について、伺います。

私たち公明党は、地域ケア会議を先進的に取り組んでいる兵庫県朝来市<sup>あさご</sup>を視察した経験から、地域ケア会議の重要性を深く理解するようになりました。その経緯もあり、昨年来から北区の地域ケア会議の視察を望んできましたが、準備等が整わない等の理由で未だ実現していません。かね

てより、地域包括ケアシステム構築には地域ケア会議の充実を所管に伝えてきましたが、十分に伝わっていないようで非常に残念です。

令和3年度の北区地域包括ケア推進計画によると、北区の地域ケア会議は3層構造で、会議実績は16箇所の高齢者あんしんセンターの合計で、年間30数回に止まっています。1箇所の高齢者あんしんセンターで会議は半年に1回という少なさで、利用者の個別課題や地域課題を抽出し、課題解決へのディスカッションができるのでしょうか。最近は困難事例も多く複合的な問題が絡んで、各方面との連携の必要性や家族の丸ごとの支援などを検討しなければならない事案が増えているはずです。個別課題・地域課題を解決するのが地域ケア会議、設置目的です。今後の北区地域ケア会議の詳細をまとめいただき、議会に報告していただきたいと思いますが、区の見解をお聞きします。

●次に自宅で介護する側の支援について伺います。

①ヤングケアラーの実態調査について

昨年12月公明党会派はヤングケアラーの取り組みを行っている神戸市を視察しました。担当者から、ヤングケアラーが気づかれない要因について、次のように語ってくれました「ヤングケアラー自身が家族の世話をすることが当たり前だと考えていることから、周囲の大人達や友達にも、自分から窮状を言い出せない現状がある。このことが周囲から気付かれない一つになっている」と。

厚労省によると「本来、大人が担うと想定されている、家族の世話や介護を日常的に行なっているヤングケアラーは20人に1人いる」と言われています。

福祉分野と教育分野が連携し、区内の学校に通う生徒児童を対象にヤングケアラーの実態調査を提案します。区の対応を伺います。

②ヤングケアラーの身近な人々への理解の促進を図るために、学校・児童の関係者、福祉ならびにサービス事業者に対して、研修や事例検討会などの実施を区として企画してもらいたい。区の見解をお聞きします。

1-[2]次に「子育てするなら北区が一番」について

●最初に、高校生までの医療費無償化について、伺います。

2004年（平成16年）4月、中学校3年生までの入院費助成制度を開始し、2006年（平成18年）4月には中学校生の医療費無償化を23区トップで実施。更に2011年（平成23年）7月から高校生の入院費無償化を実現しました。このように北区の子ども医療費無償化への道は、一貫して花川区長のリーダーシップのもと全国をリードしてきました。

1月28日、東京都は令和4年度予算案に7億円を計上し、区市町村のシステム改修を補助することを発表。今後、区市町村との協議がまとまれば、令和5年度から順次、高校3年生までの医療費が無償化されます。

これは、一昨年来から都議会公明党が提言してきた高校3年生までの医療費無償化の実現で、読売新聞にも「高校生の医療費助成は、都議会公明党が昨年7月の都議選の公約に掲げ、都に要望を続けてきた」と報道。それを受け、2月4日区議会公明党は、花川区長に「高校生までの医療費無償化についての要望書」を提出し、席上、区長から「実施に向けた検討を指示する」との明快な回答がありました。

そこで実施するにあたり、以下3点質問します。

①各関係機関との調整や実施までのスケジュールと区負担額をお答え下さい。

②所得制限を設けるのか、区の見解をお聞きします。

③実施するまでの課題は何か、区の見解をお聞きします。

次に

●学校給食費補助制度の拡充について、伺います。

学校給食費補助制度は、保護者の経済的負担を軽減するために区議会公明党が要望し、2019年(平成31年)4月の区長・区議会議員選挙で花川区長が選挙公約として掲げたもので、その後、給食費無償化は花川区長の決断により、2020年(令和2年)10月から多子世帯の条件付きながら実施。これは人口30万人以上の地方自治体で初の実施となる快挙でした。以下3点、区の見解をお聞きします。

- ①学校給食費補助制度の拡充を求めますが、区の見解をお聞きします。
- ②学校給食費を全額補助にした場合、区の予想負担額をお答え下さい。
- ③学校給食費への公会計制度の早期の導入を求めますが、区の見解をお聞きします。

大きな2つ目の質問、シテイプロモーションで目指す“北区の将来像”について

シテイプロモーションを推進するにあたり、まずは政策目標のどれを達成するのかを明確にしなければなりません。間違っても、シテイプロモーションを推進することが目的になってはいけないと思います。

●北区シティプロモーション戦略方針の改定についてお聞きします。

2016年に策定された北区シティプロモーション方針を

今、再度読み込んでみても、もやーとしたものが残る。

その第一は、1996年に策定された北区イメージ戦略ビジョン KISS と北区シティプロモーションの関係やつながりがよく理解出来ないことが一つ。

その第二は、北区のシティプロモーションの目指すものが「30万都市・北区」の実現なのか？「北区の認知度を高めること」なのか？「きずなづくりと若年層の定住化」を図ることなのか？

シティプロモーションの目的とそのターゲットがスットンと正直伝わってきません。

そうは言いながらも、20年以上前の北区イメージ戦略ビジョン KISS は、若手職員を中心に未来の北区像を想定しながら策定されたことは、今から思っても非常に画期的な事だったのではないのでしょうか。そして何よりも、策定に携わった若手職員が、その後の区政を引っ張る中心的人材に育ち、花川区政の「長生きするなら北区が一番」「子育てするなら北区が一番」「教育先進都市、北区」のスローガンのもと、安心して暮らせるまちの発展・福祉の向上へ、区政発展つながって行ったことは周知の事実です。このことから、北区がこれから取り組むシティプロモーション戦略方針の改訂作業が区政の将来像の進路を決める極めて重要な作業だと思います。

そこでお聞きします。1996年のイメージ戦略ビジョンから新たな北区シティプロモーション戦略方針へと繋がっていくことに関して、改めて区当局から区民の皆様はこの場を借りて、北区のシティプロモーション戦略方針改定をアピールしてほしいと思います。お答え下さい。

●次にシティプロモーションのターゲットについてお聞きします。

「子育てするなら北区が一番」のターゲットは区内外の「子育て世代」で、定住化を目的とし、子育て施策などを充実させ、ターゲットにアピールしてきました。

時を同じくして、千葉県流山市がスポンサーになり開通まもない「つくばエクスプレス」の鉄道駅に長大なポスター広告「母になるなら、流山市。」を貼り出し、その後、全国的に人口減少が続く中、流山市は5年連続人口増加率第一位を獲得し、以前までの流山市は、団塊世代の層が一番多い構成になっていたものが、今では30代40代の子育て世代の層が全体の3割を超えるようになり、子育て世代から選ばれる街となりました。人口は昨年20万人を超えました。

北区の「子育てするなら北区が一番」、流山市の「母になるなら、流山市。」一見、同じ子育て世代をターゲットとしたプロモーションコピーですが、10数年経って両区の子育て世代の定住状況の結果は、合計特殊出生率に表れているようです。ちなみに流山市の合計特殊出生率は、この13年間で1.29(2004年)から1.62(2017年)に、125%の上昇です。北区は1.18(2019年)、全国の平均は1.43(2017年)です。

あるインタビューで流山市の広報官が「母になるなら、流山市。」のターゲットの絞り込みの一端について、次のように語っています「母=子育てというイメージがどうしても強いのでしょうか」「でも、母は子育てするだけではありません。子育てをしながら自分の夢も諦めていない」「そんなお母さんはイキイキしている」と。

●子育て世代をターゲットとしてきた北区と流山市、プロモーションのターゲットの絞り込みなど、<sup>どこ</sup>何処がどう違うのか？分析し研究する必要があると思いますが、区の見解をお聞きします。

●シビックプライドの醸成について、以下2点質問します。

①「シビックプライド」って、一体何だろう！？<sup>おう</sup> 渋沢栄一翁が NHK 大河ドラマ「晴天を衝け」に取り上げられてから、よく耳にする言葉です。「自分の住んでいる街に対する住民の誇りや愛着」と定義されるのでしょうか？

今なぜ、北区シティプロモーションを推進するにあたり、シビックプライドの醸成が必要なんでしょうか？区の見解をお聞きします。

②人に「北区って、良い街だね」と話してもらえるように、なるにはどうしたらイイか？お尋ねします。区の見解を伺います。

●次に北区の将来像についてお尋ねします。

新しい基本構想の審議が開始された関係もあり、なかなかお答え憎いと思いますが、リーダーがこの先の20年後2040年頃の北区の未来像を語っていただかないと、王子駅周辺の活気あるまちづくりや新庁舎などのイメージが湧いてきませんし、北区に対して明るい希望など描けないのではないのでしょうか？

是非、お答え下さい。

●シティプロモーションの最後の質問です。区に対して提案になります。シティプロモーションを推進するにあたり、まず、その担当所管の位置付けを組織内で明確にし、全庁で取り組めるよう組織強化していただきたいのが1つ。次にシティプロモーションで描く北区の未来像を実現するためにも官民連携は必須いで、そのためにも積極的に広く外部人材の登用を検討してもらいたい。以上2点区の見解を伺います。

大きな3目の質問、新型コロナワクチン接種について



迅速なワクチン接種が進むよう区議会公明党は一貫して取り組んでまいりました。昨年3月の予算特別委員会で新型コロナワクチン接種会場へ移動困難な高齢者等に対して無料でタクシーが利用できるよう提案し、北区と災害時連携協定を結んでいるタクシー・バス事業者、個人タクシー協同組合の協力を得て実現しました。ワクチン接種会場への無料タクシー利用は、東京で初めてのことであり、あらためて区当局およびタクシー事業者様等に感謝いたします。

以下、新型コロナワクチン接種（以下、ワクチン接種）について大きく3点質問します。

●高齢者の接種状況と高齢者施設の接種完了時期について

東京都の新型コロナウイルスのモニタリング会議の報告によると、新規感染者の増加ペースは鈍化しているが、感染者に占める65歳以上の高齢者の割合が増加していると。北区においては1月末から高齢者への接種が始まったが、

①2回目の接種から6ヶ月以上が経過した人のうち3回目接種を終えた方は何人になるのか、また現在、高齢者への接種はどの程度進んでいるのか、

②特養、小規模施設やグループホームなどの高齢者施設や障害者施設での3回目接種は順調に進んでいるのか、そして接種完了時期をいつ頃と定めて接種しているのか、

それぞれ区の見解をお聞きします。

③2月7日岸田総理は国、自治体、企業あげて2月のできるだけ早期に一日100万回までペースアップすることを目指すと言われたが、北区においては職域別接種、大規模接種会場の設置など、ペースアップへの対応が急がれるが、北区の具体的対応をお答え下さい。

●5歳から11歳までの子どもへのワクチン接種が「努力義務」の適用が外され、12歳以上と同じ「臨時接種」と決まり、2月21日から各自治体にワクチンを発送する予定で、準備ができた自治体から3月を待たずに接種を開始すると見解が示されました。北区の接種体制について、以下3点質問します。

- ①努力義務適用が外され接種希望人数をどの程度と見込んでいるのか、また接種を希望しないことを選択した場合、いじめや差別に繋がらないよう十分な配慮が必要だが、区の対応をお聞きします。
- ②保護者・子どもに不安を与えない丁寧な説明とワクチンの安全性について、正しい情報提供と接種全般に関わる周知などが区に求められるが、区の具体的な対応をお答え下さい。
- ③小児用のワクチンは希釈の量や1回あたりの接種量が大人用のワクチンとは異なることから、安全な取り扱いが求められる。文京区などでは、誤った接種を避けるため小児専用接種会場を用意。北区の場合は、どのような方法によって、適切な接種を行っていくのかお聞きします。

●学校・保育園・幼稚園・子ども施設に従事している教職員への優先接種について

子どもへの感染ルートは圧倒的に大人からの感染だと言われています。子どもへの感染防止は、子どもを取り巻く周囲の大人へのワクチン接種をいち早く実施することが肝要です。そこでお聞きします。

学校・保育園・幼稚園・子ども施設等に従事している教職員・臨時職員・会計年度任用職員等への優先接種枠を設け、速やかに実施すべきと提案しますが、区の見解をお聞きします。

●子どもへのワクチン接種情報の発信について、

これまでも北区ホームページの見やすさや迅速な情報発信などホームページの充実・改善を求めてきましたが、今回の11歳以下の子どもへの新型コロナワクチン接種について、北区に苦言を呈したい。

昨年11月、11歳以下の子供へのワクチン接種に関して、国から全国の自治体に接種体制の確保などを進めるよう通知されたが、2月10日現在北区のホームページでは、5歳から11歳の子どもへのワクチン接種について何のアナウンスも見当たらない。その後、2月15日にホームページに概要が掲載され、2月17日には北区危機管理本部にて開始の日時などが決定し、プレスリリースされた。北区ホームページに、もっと早く子どもの接種情報を載せるべきだったのではないか。情報を届ける場合、ターゲットは誰なのかを想定し適切な情報伝達方法も考えてもらいたい。区民への適切な情報発信を司る部署は改めて何処なのかも含め、区の情報発信について区の見解を伺います。

## 大きな4つ目の質問、北区新基本構想と大規模水害について

### 4-[1]北区新基本構想について

昨年スタートした北区基本構想審議会で区長は基本構想について「北区の将来目標を達成するための方法について、基本的な考え方を示した区民憲章とも言うべきものだ」と挨拶された。

基本構想で想定する2040年までに、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年問題、SDGs達成年度である2030年、そして団塊世代の子ども達、ジュニア世代が65歳を迎える2040年問題と、向こう20年間、乗り越えていく幾つもの高いハードが待ち受けています。

将来人口推計から日本の生産年齢人口の推移を改めて見てみると、2040年の生産年齢人口は約5,542万人となり、現在と比較して、実に約2000万人の減少となります。社会保障的にこれを言い換えると、1.5人の現役世代で1.0人の65歳以上の高齢者を支える状況を意味しています。

●基本構想が想定する2040年について、区の見解を以下4点お聞きします。

- ①北区の人口動態について2040年はどのような人口構成になっているのか、お答え下さい。
- ②北区の社会保障を支える現役世代と高齢者世代の人口比率はどのように予想されるか、区の見解をお聞きします。
- ③高齢者人口の増加とともに、家族による生活支援を得られにくい一人暮らしの高齢者が増加すると予想されますが、区ではどの程度と予測しているかお答え下さい。
- ④また、2040年には69万人の介護人材が不足すると言われ、その深刻さが区民生活に直接影響してきます。介護職からの離職者への対応や老老介護の支援がますます求められるが、区の対応についてお答え下さい。

●昨年の審議会で、基本構想の説明を「区民憲章」と言われたのはどのような背景があり言われたのでしょうか、また区長としてこの機会に「区民憲章」を<sup>せいてい</sup>制定するお考えがあるのでしょうか、お答えください。

#### 4-[2]大規模水害対策について

●堀船地域を流れる石神井川の諸問題について

2019年に発生した台風19号の影響で、日本各地で被害が発生し、堀船地区では小学校に避難所が開設され多くの方が避難された。この堀船地区は2005年と2010年の2回、石神井川の氾濫で約500世帯に及ぶ浸水被害を被った。その後、東京都により、王子第2ポンプ場の建設工事が着手。しかし、すでに運用が開始しているはずの王子第2ポンプ場の完成が大幅に遅れ、それに加え高潮対策の石神井川護岸工事が、部分的に断続的に建設工事が行われるだけで、完成時期も示されず、住民の不安が解消されていません。荒川氾濫への大規模水害への対応強化はもちろんですが、地域の水害対策の要、ポンプ場と高潮対策護岸工事の早期の完成と住民への説明が望まれます。以上、東京都に求めていただき、区の見解をお聞きします。

次に、以前からの課題である石神井川の悪臭について、悪臭の原因スラムの発生を除去する<sup>しゅんせつ</sup>浚渫作業や、王子駅付近での湧水を利用しての対処療法的な対応がなされているが、化学的効果のある根本的な悪臭対策を行っていただきたい。区の見解をお聞きします。

### ●コミュニティタイムラインの検討～モデル実施について

2020年度、大規模水害時に「逃げ遅れゼロ」を目指すために、コミュニティタイムラインの作成を浸水が想定される連合町会で実施すると聞きました。区が推奨する高台避難には<sup>むずか</sup>難しい多くの課題があり、特に浸水想定地域の高齢化比率は3割を超え、要配慮者の把握と具体策が急がれています。また緊急的に垂直避難ができる空間を地区内に確保するなど、多種多様な課題があり、コミュニティタイムラインを作成するにはパンドラの箱を開ける区の覚悟が必要です。

以下、2点質問します。

①コミュニティタイムライン検討モデル地区として、堀船地区が最適だと思いますが、区の見解をお聞きします

②浸水地域の住民の災害意識調査を実施し、コミュニティタイムライン作成に活かしていくべきだと考えますが、区の見解をお聞きします。

\* 水平避難と垂直避難を組み合わせて避難できる環境を整え、水が引くまでの間、生活レベルが最低限保てるよう目指すことが重要だと考えます。

### ●浸水地域の堀船中学校改築について

①大規模水害で浸水する可能性のある葛飾区では、水害時に避難所となるよう、改築する学校体育館を浸水深さ以上の位置に建設し、多くの避難者を収容できるようにします。荒川が氾濫した場合、想定浸水深さ、平均 3.2 メートルから住民を守るために、改築予定の堀船中学校の体育館や教室が避難所として機能が発揮できるよ、葛飾区の例にならない設計に反映してもらいたい。区の見解をお聞きします。

②堀船中学校の改築は周辺の区民施設が統廃合され、複合施設になると聞いています。複合施設で総床面積が増加するのではないかと予想しますが、その事が、公共施設再配置計画に影響し財政を圧迫する要因になることを懸念します。区の見解をお聞きします。

以上で、代表質問を終わります。ご清聴、ありがとうございました。